



有限会社 石久仏壇店
知的資産経営報告書
2011

目次

	ページ
目次	1
ご挨拶	2
会社概要／沿革	3
社是	4
当社の知的資産(強み)の全体像	5
事業概要	6
当社の「強み」①	8
当社の「強み」②	10
当社の「強み」③	12
今後のビジョン	13
「知的資産経営報告書」とは	15

ご挨拶

古くから木彫りと仏壇の里として知られてきた上丹生^{かみにゅう}では、400 年の歴史を誇る長浜祭の「曳山」^{ひきやま}の製作によって培われてきた木工、漆芸術^{かざり}、鋳金具等、高い技術の集積によって生み出された最高級仏壇「浜仏壇」の製造が盛んです。



その中で当社は、先代が木地師^{きじし}から始めて 92 年、伝統の技を現代に守り続けています。

とりわけ当社は、木地師から始めていることもあり、木に対するこだわりは特別なものがあります。

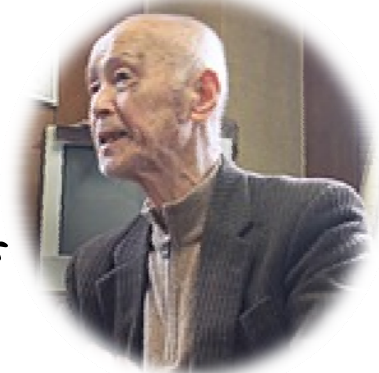
神社等で祀られている神木にもあらわれているように、日本人は昔から木に対する尊敬の気持ちを持っていました。長い年月、風雨に耐えながら育ってきた木を無駄にすることなく、木が持つ良さを最大限に生かして使うことが、木地職人として一番の使命と思っています。そして手間ひまかけた昔からの技法を守りながら、何代にもわたって使っていただける、財産となる商品を作れるよう努力しています。

しかしながら、最近では伝統技法によらない樹脂塗料を使った製品や、海外で製造された仏壇に押され、職人が育たないのが現状です。先人から受け継いだ素晴らしい技術を後世に残すためにも、住宅事情にあった小型仏壇の製作にも取り組んでいます。

石久仏壇店にとって一番の喜びは、お客様に喜んでいただき、そしてご家族で何代にもわたって守っていただけるものをつくれることです。

この度、当社の「強み」を改めて洗い出し、お客様に從來あまりお伝えしていなかった当社の本当の良さをお伝えするために、初めて「知的資産経営報告書」の作成に取り組みました。皆様におかれましては、本書を通じて、より深いお付き合いをいただければ、幸いです。

有限会社 石久仏壇店
代表取締役 清水 喜代美



会社概要 / 沿革

概 要

会社名	有限会社 石久仏壇店
所在地	滋賀県米原市下丹生 611 番地（店舗・工場）
創業	大正 8 年(1919 年)
会社設立	昭和 32 年(1957 年)
代表者	代表取締役 清水喜代美
従業員数	8 名
資本金	600 万円
TEL	0749-54-2567
FAX	0749-54-0977
Web サイト	http://isikyu.com
E-mail	info@isikyu.com
表彰等	清水喜代美…平成 22 年度 滋賀県滋賀県技能者(おうみの名工) 表彰



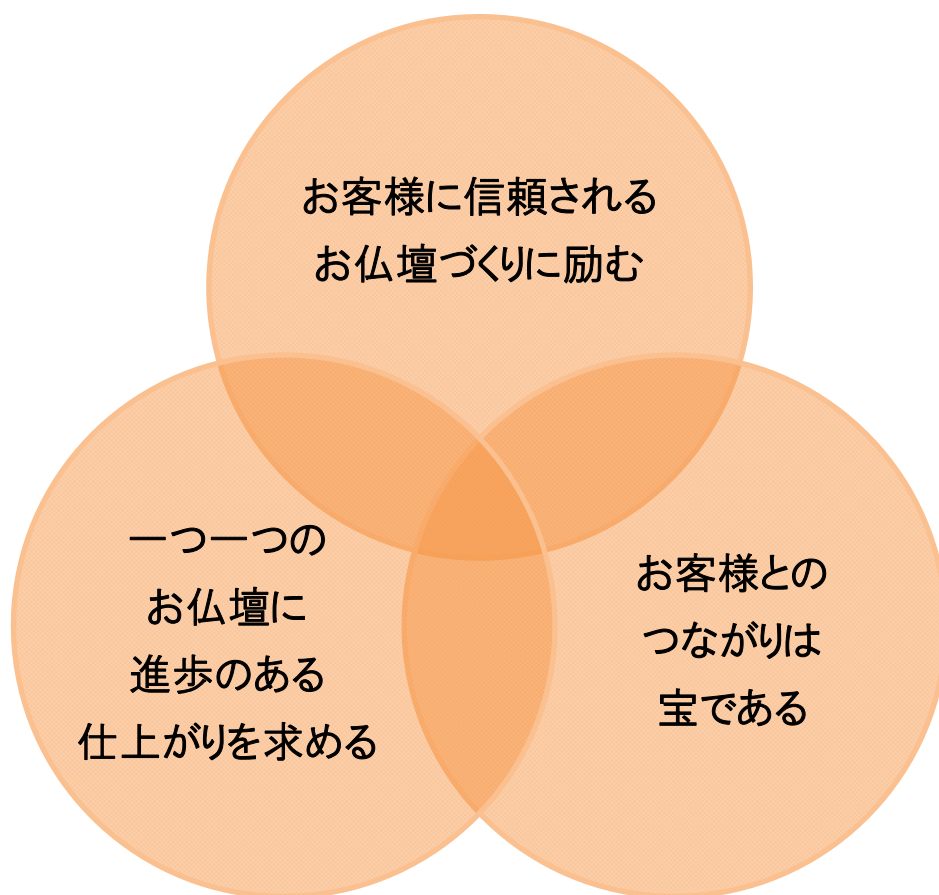
当社店舗外観

沿 革

大正 8 年	先代 清水喜一により前身である「清水兄弟仏壇製作所」創業。 木地の製作を中心に行う。
昭和 14 年	清水喜代美が当社に就職。
昭和 32 年	有限会社 石久仏具店に法人成り。
昭和 42 年	清水喜代美が代表取締役社長に就任。
平成 20 年	有限会社 石久仏壇店に商号変更。
平成 21 年	仏間の無い家庭向けの浜仏壇を製作。
平成 22 年	清水喜代美が「おうみの名工」として滋賀県に表彰される。

社 是

- 一. お客様に信頼されるお仏壇づくりに励む
- 一. 一つ一つのお仏壇に進歩のある仕上がりを求める
- 一. お客様とのつながりは宝である



当社の知的資産(強み)の全体像

【知的資産の価値創造マップ】

当社の知的資産(強み)が、現在どのように当社の価値を生み出しているのか、最初に全体像を明らかにしたいと思います。それぞれの内容については、次頁からの説明をお読みいただければ幸いです。

社是

努力・工夫／
「強み」の活用

当社の
「強み」

事業

お客様に
信頼される
お仏壇づくりに
励む

一つ一つのお仏壇に
進歩のある
仕上がりを
求める

お客様との
つながりは
宝である

良質材木の
常備

木地への
こだわり

お洗濯／修繕
修復の受注

製作工程の
公開

製造元として
の信頼性

つながりを
大切にする
取組み

お客様との
つながり

お仏壇の
製作・販売

お仏壇の
お洗濯

寺院・神社
での修復

事業概要

【お仏壇の製作・販売】

当社は、滋賀県の伝統工芸品であり、約 300 年の伝統を有す「浜仏壇」を中心に製作・販売してまいりました。

■ 浜仏壇の特徴

浜仏壇 300 年の伝統

浜仏壇は、江戸時代中期(1700 年代)に、日本三大山車祭の一つである、長浜曳山祭の曳山を型どり、仏壇の様式として藤岡和泉が創案したものです。滋賀県の伝統工芸品にも指定されています。



2003 年長浜曳山祭 中央が曳山(長浜市広報より)



滋賀県知事指定
伝統工芸品
マーク

特徴ある浜仏壇の様式

浜仏壇は、次のような様式に特徴があります。

1. 一切の接着材・釘などを使用しない「**構架組立方式**」で製作。
2. 彫刻を櫨もしくは桧の丸彫(一木から全体を彫り出す技法)で「**金・漆塗り等**をせず白木のまま使用」。

「構架組立方式」

一つ一つの小さな部品を、塗りを終えてから組み立てて製造します。

組立後でも、全ての部品を分解することができます。

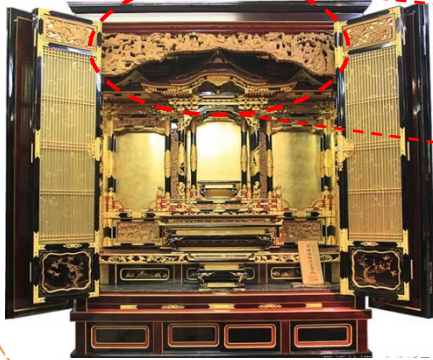


お客様へ

・塗りを終えてからの組立
⇒ 塗る際に部品の隅々までハケが通るので、塗りが美しい仕上がりになります。

・全て分解が可能
⇒ 仏壇のお洗濯の際にも、隅々に渡って確認し、きれいにすることができます。

「白木のままの彫刻」



上写真のように浜仏壇では、彫刻部分を、白木のまま使用します。



お客様へ

・金・漆塗り部分が多い仏壇の中で白木の彫刻はとても目立ちます。
⇒彫刻の美しさが際立ちます。

【お仏壇のお洗濯／寺院・神社での修復】

当社は、浜仏壇の製作技術を活かし、お仏壇の「お洗濯」を承っております。また、寺院の大きなお仏壇や神社のお神輿、曳山などのお洗濯や修繕・修復も行っております。

■お洗濯って？

お仏壇の活かせる部品は活かしつつ、全面的に洗浄や修繕・修復を行うことをいいます。

長年お使いの仏壇は、虫食いがあったり、スス等の汚れが溜まったりしている場合があります。それらが簡単な掃除・修繕では解決できないとき、お洗濯の必要性が出てきます。



背面下部に虫食いのあるお仏壇



お仏壇の解体
(お仏壇を「ほどく」といいます)



細部まで一つ一つ洗浄



お神輿の修復・修繕

当社の「強み」 ①

【木地へのこだわり】

当社は、仏壇の基本は「木地にあり」と考えております※。

仏壇は一度ご購入いただいたら、簡単に買換えはできないものですので、長持ちすることが大切です。もし木地そのものに支障があれば、表面上に美しく仕上げられていても、その美しさの保持に問題が出てきたり、後々のイタミにつながったりするのです。

なお、社名を石久仏壇店と、木偏の「檀」を使用しているのも、このような考えを表すものです。

※木地…木加工品で、漆・金塗り等をする前のもののことを言います。

■材木に対する「目利き力」

当社は、材木の質の選別からこだわりを持っています。



・100%国産材を使用。

・北側の山面で100年以上育った原木のみを使用。
⇒年輪と年輪の間が狭く締まっており、硬くて丈夫です。

・秋切りされた原木のみを使用。

⇒秋切りでなければ、白太に虫が入り、後々の「虫食い」の原因になります。



木の断面

これらのこだわりを追究するには、社長である私の70年にわたる知識や経験が大きくございます。

その知識や経験を持つため、立ち木を外から見て、切り倒す前からその質の良し悪しを判断することができます(「目利き力」)。立ち木の日当たりや枝ぶり等を見ると、良し悪しが自ずと分かってくるのです。

ときには材木業者からお招きを受け、良質の材木となる立ち木かどうかの判断を求められることもあります。

■「適材」適所に利用するノウハウ

私は、『「木」は生きている』と常々申しております。

木は切り倒した後も、年輪の間隔や一本一本の太さ、節の有無などで、「反り」や「曲がり」が生まれたり、色あいも変わっていくものです。

それらを予測し、その材木をお仏壇の「どこにどのように」利用するのが良いのかを判断できるのが、私のもう一つの力です。



自然乾燥中の材木

ノウハウを活かして、例えば次のようなことにこだわっています。



- ・2年以上は、そのまま自然乾燥で寝かせておく。
⇒十分に乾燥させないと、組立のとき寸法にズレが生じます。
- ・節がある材木でも生き節は○、死に節は×。
⇒生き節(節が周囲の繊維と噛み合って抜けないもの)があるものはお仏壇の材料として使いますが、死に節(枯死した枝の節で、周囲の繊維と噛み合っていないため、抜ける可能性が高いもの)は使いません。

■良質の材木を得られるネットワーク

上述のような私の力があることもあり、良質の材木となる木の情報があれば、材木業者・製材業者からお知らせいただくこともございます。

現在は、国産の良質の材木がそうそう入手できなくなっておりますので、大切なつながりです。



渦巻状の木目の模様(玉杵:たまもく)のある板。厳しい環境下で育った木にのみあり、大変稀少。
一枚、数百万円～。



上のように仏壇の一番外側の戸(大戸)に使用します。玉杵の美しい模様を活かしています。
(写真は塗り等をする前の状態)

【良質材木の常備】

当社の倉庫には、これまでストックした材木が山のようにあります。その量は新しく購入せずとも5年は過ごせるほどの量になります。

この中から、適切な材木を選び出し、お仏壇の製作に取組んでいます。



【備考】

上記のような私の力は、独自に蓄積してきたものであり、一部を除き私のみが持っているものです。そのことは当社の「弱み」でもあります。

現在、私とその力の内容(中身)をまとめる等、伝承についても考えているところです。

当社の「強み」 ②

【製造元としての信頼性】

当社は、「製造」直売店です。

よって、木地や屋根製作、漆塗りといったお仏壇本体に関わる工程の職人が全て当社におります。店舗のすぐ横に工場があるということもあり、お客様には自信をもってお仏壇をお勧めすることができます。

■ 浜仏壇の製作工程



【木地師】



【屋根師】



【漆塗師】



外部の職人のネットワーク



かざりしよくし
【鋳職師】



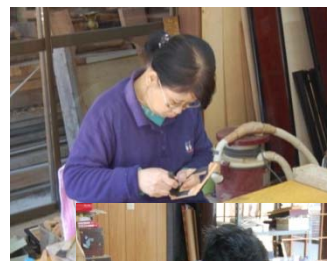
【彫刻師】



まきえし
【蒔絵師】

■職人の経験

私は、木地師として 70 年以上の経験を持っています。
また、8 名の職人全員が、20 年以上の経験を持つベテランです。



■外部の職人のネットワーク

彫刻師、^{かざりしよくし} 鋳職師、^{まきえし} 蒔絵師は国内のベテラン職人であり、約 40 年以上、当社とともに仏壇づくりに関わっています。



製造元であることを活かして

①お洗濯や大きな修繕・修復を承ることができます。

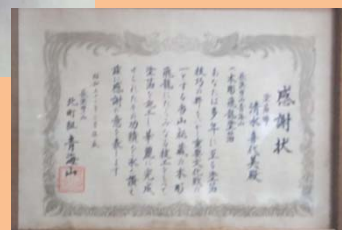
お洗濯を行うためには、基礎工程の職人の手が必要ですが、当社にはその全ての職人がおります。よって、お仏壇のお洗濯や、さらには寺社の修繕・修復の受注を、自信をもって承ることができます。



曳山「青海山」全体像
本体:1755 年(宝暦 5 年)
藤岡和泉長好 作



曳山上部に据えられた
木彫「飛竜」
当社が修復に携わりました。
(右は感謝状)



ほか、8 寺院からも感謝状をいただいております。

②製作工程を公開しています

完成品だけでなく、その製作工程を公開していますので、ご購入お客様はもちろんのこと、将来ご購入をお考えの方も、ご覧になることができます。

また、見学会・研修会などの受け入れも随時行っております。



(上)工場外観



(左)ミシガン州立大学
彦根校による研修
09 年 11 月 28 日

当社の「強み」 ③

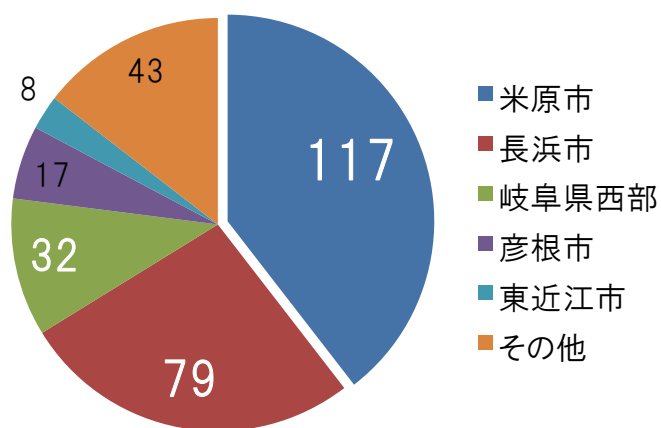
【お客様とのつながり】

当社は、地元の滋賀県米原市・長浜市、岐阜県西部(大垣市・不破郡等)を中心に、過去 40 年間で約 500 本のお仏壇を、お客様に納めてまいりました。

一度ご購入いただいたお客様から、新たなお客様をご紹介していただくことも多くございます。当社と当社のお仏壇が信頼されている証であると受け止め、お客様とのつながりが当社の宝であると考えております。

お客様の居住地 1992～2010年

(単位:件)



浜仏壇の様式は、長浜市の曳山祭を発祥とすることからも、当社の約三分の二のお客様が地元の米原市・長浜市にお住まいです。

また、それらの隣地である岐阜県西部や彦根市・東近江市のお客様が次に多いことは、当社を信頼していただき、ご紹介をしていただいたのではないかと考えております。

当社お仏壇をご購入いただいたお客様のご紹介によるご購入：11 件／全 15 件中
(直近 2 年間 2009 年～2010 年)

【つながりを大切にする取組み】

◆取組みの一例◆

- ・何らかの不具合が生じれば、社長が必ず直接お伺いして確認。
- ・パソコンにてお客様名簿を作成し保管(1992 年～)。
- ・お客様への日頃のお手紙(年賀状等)を毎年送付。
- ・ご紹介者へのお礼状の送付。

今後のビジョン

【外部環境】

今後のビジョンを策定するに当たって、まずお仏壇の製造・販売をとりまく外部環境について、ご説明させていただきたいと思います。

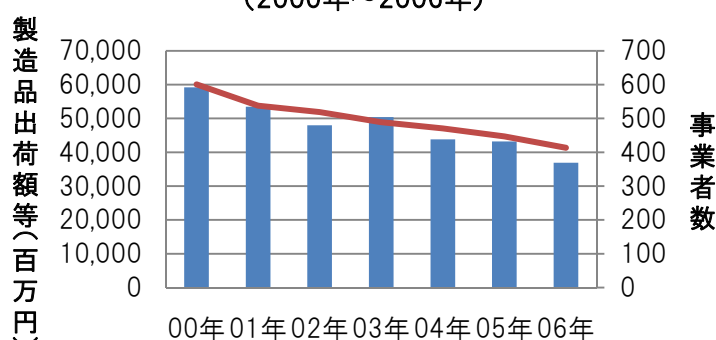
■安価な輸入品の進出

1990年代から、中国・韓国・ベトナム等で製造された比較的安価な仏壇が国内に進出してきました。

その影響もあり、国内製造元の倒産などが相次ぎ、長期的な傾向として事業者数・出荷額共に減少してきています。

(右グラフ参照)

宗教用具製造業の推移
(2000年～2006年)



出展: 経済産業省「工業統計」を元に作成

■起こる「産地偽装」、求められる信頼性

輸入品の進出とともに、仏壇業界で問題になっているのは、「産地偽装」の問題です。

実際、消費者庁や(社)日本広告審査機構には、次のような相談が寄せられているそうです。

「高価な木材や、天然木で作られていると説明されて買ったが、届いたものは合板に塗装したものだった。」

「伝統的工芸品(国産)と説明されて購入したが、それに似せた大量生産品(外国産)だった。」

このような状況を重く受け止め、いま仏壇業界と経済産業省が協力し、業界全体として従来徹底されていなかった品質表示の基準統一を図っているところです。

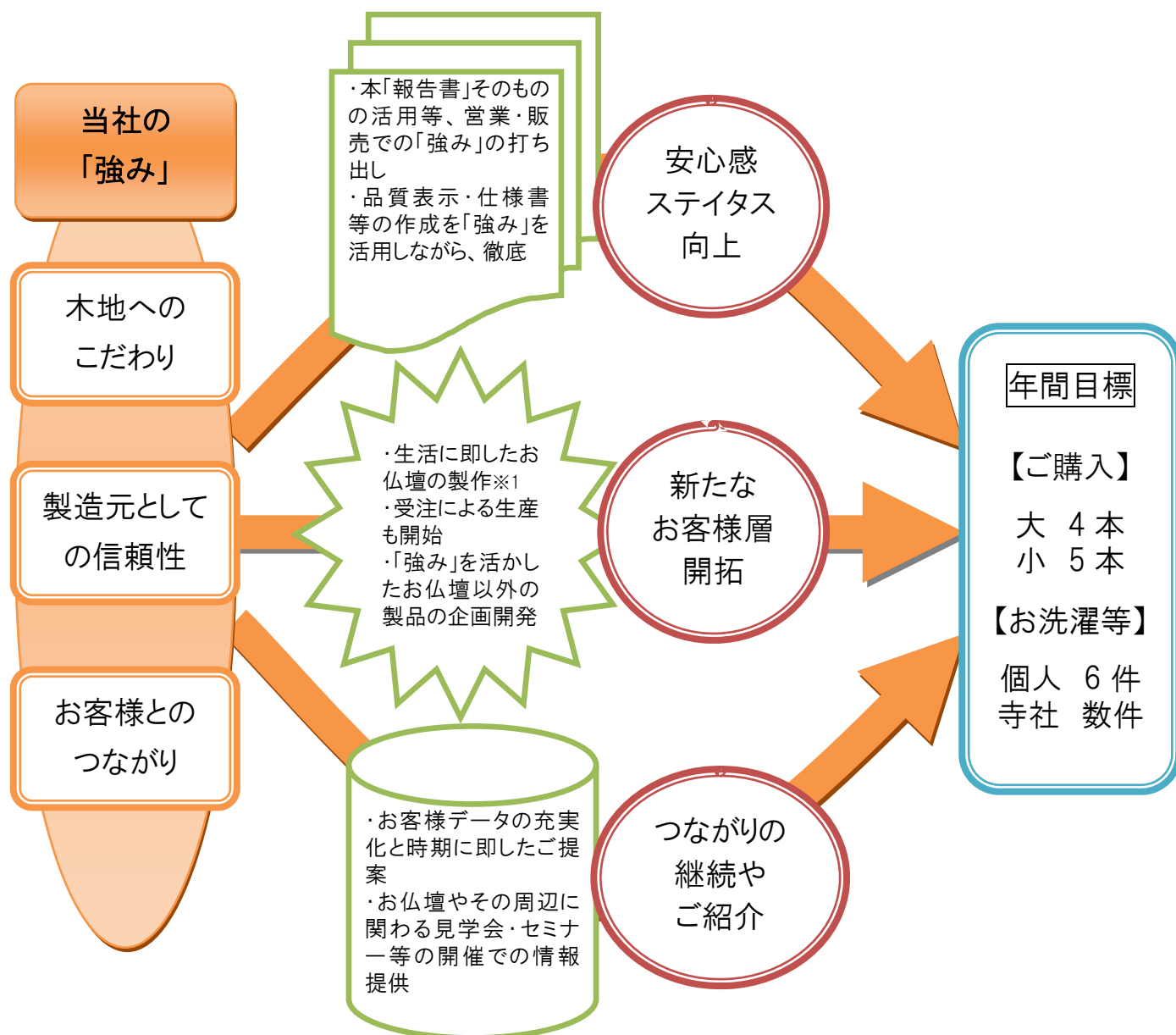
■お客様の生活様式の変化に合わせたお仏壇

現在、核家族化に伴って住宅事情も変わり、そもそも仏間の無いお宅(マンション・アパート等)や大きなお仏壇を置く場所のないお宅なども増えてきています。当社は、これらの生活様式が変わっていくことに即したお仏壇が求められていると考えています。

(本項は、経済産業省 HP、全日本宗教用具協同組合 HP 等を参考にさせていただきました。)

【これからの事業展開(3年後)】

前頁の外部環境を念頭に置きつつ、当社の「強み」を活かして、これからの展開をどのようにしていくか、概要ではありますがご説明させていただきたいと思います。



※1 の例

2009 年春に製造を開始した小型のお仏壇です。マンションや小さなお部屋のあるお宅向けとして製作しております。

もちろん浜仏壇の「高架組立方式」「白木の彫刻」といった技法はそのまま採用しております。

(大きさ: 高さ 74 cm × 幅 42 cm 下台は分離することができます)

「知的資産経営報告書」とは

1. 「知的資産経営報告書」について

「知的資産」とは、企業がその経営状態や業績を評価される際に、これまであまり顧みられなかった無形の資産のことであり、企業における競争力の源泉である人材、技術、知的財産（特許・商標など）、組織力、経営理念、ネットワークなど、財務諸表には表れない、目に見えにくい経営資源の総称です。

「知的資産経営報告書」とは、それら「知的資産」を文書にすることによって可視化し、意識的・積極的に経営に活用していこうとするものです。

また、これを開示し、顧客、金融機関、支援員といったステークホルダー（利害関係者）に対して、「知的資産」を活用した経営戦略を分かりやすくお伝えし、企業価値の向上プロセスについて認識を共有化することを目指すものでもあります。

当社は、本書を主として次の2点を目的として作成いたしております。

- ①当社がこれまで培ってきた「知的資産（強み）」を洗い出すこと。
- ②その「強み」をお客様に開示し、分かりやすくお伝えすること。

なお作成支援者は、本報告書の支援に当たり、次の書籍等を参考にして作成いたしました。

- 経済産業省 『知的資産経営の開示ガイドライン』
- 京都府 『知恵の経営報告書作成ガイドブック』
- 中森孝文著 『「無形の強み」の活かし方』
- 内田恭彦 ヨーラン・ルース著 『日本企業の知的資本マネジメント』

2. 本書のご利用上の諸注意

本報告書に掲載しました「今後のビジョン」及び附帯する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報を元に、私どもの判断にて記載しております。そのため、将来的に私どもを取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容を変更すべき必要が生じることもあり、その際には本報告書の内容が、将来実施又は実現する内容とは異なる可能性もあります。

よって、本報告書の記載内容を、私どもが将来にわたって保証するものではないことを十分にご了承願います。

■ 作成者

有限会社石久仏壇店 代表取締役 清水喜代美

■ 作成支援者

- 行政書士 谷田 良樹／行政書士 中島 巧次
所属：滋賀県行政書士会
登録：京都府「知恵の経営」ナビゲーター
滋賀県中小企業応援センター登録専門家
京都中小企業応援センター登録専門家
- 滋賀県中小企業応援センター 米原市商工会

■ お問い合わせ先

有限会社石久仏壇店
〒521-0034
滋賀県米原市下丹生 611 番地
TEL:0749-54-2567 FAX:0749-54-0977
E-Mail: info@isikyu.com

■ 発行

2011 年 5 月 1 日